

# 国際的先端医療機器開発実証事業費補助金②

## <予算制度の概要>

【目的】医療現場の大きなニーズである患者のQOLの向上を目指し、より低侵襲な手術の実現や地方の中小医療機関への手術支援ロボットの導入を促進するため、コンピュータ技術を始めとした先端技術を活用して、安全で適確な手術を支援するロボットの開発及び治験等実証試験を行う事業です。

【補助額】1社あたり上限12億円(3年間)

【補助率】補助率は2/3、大学等研究機関へ研究の一部を委託する場合は補助率10/10となります。

## <採択された案件>

オリンパス株式会社 「多関節軟性手術支援ロボティックシステムの開発・実証事業」

## ○研究開発の内容

### 1 医療現場の課題

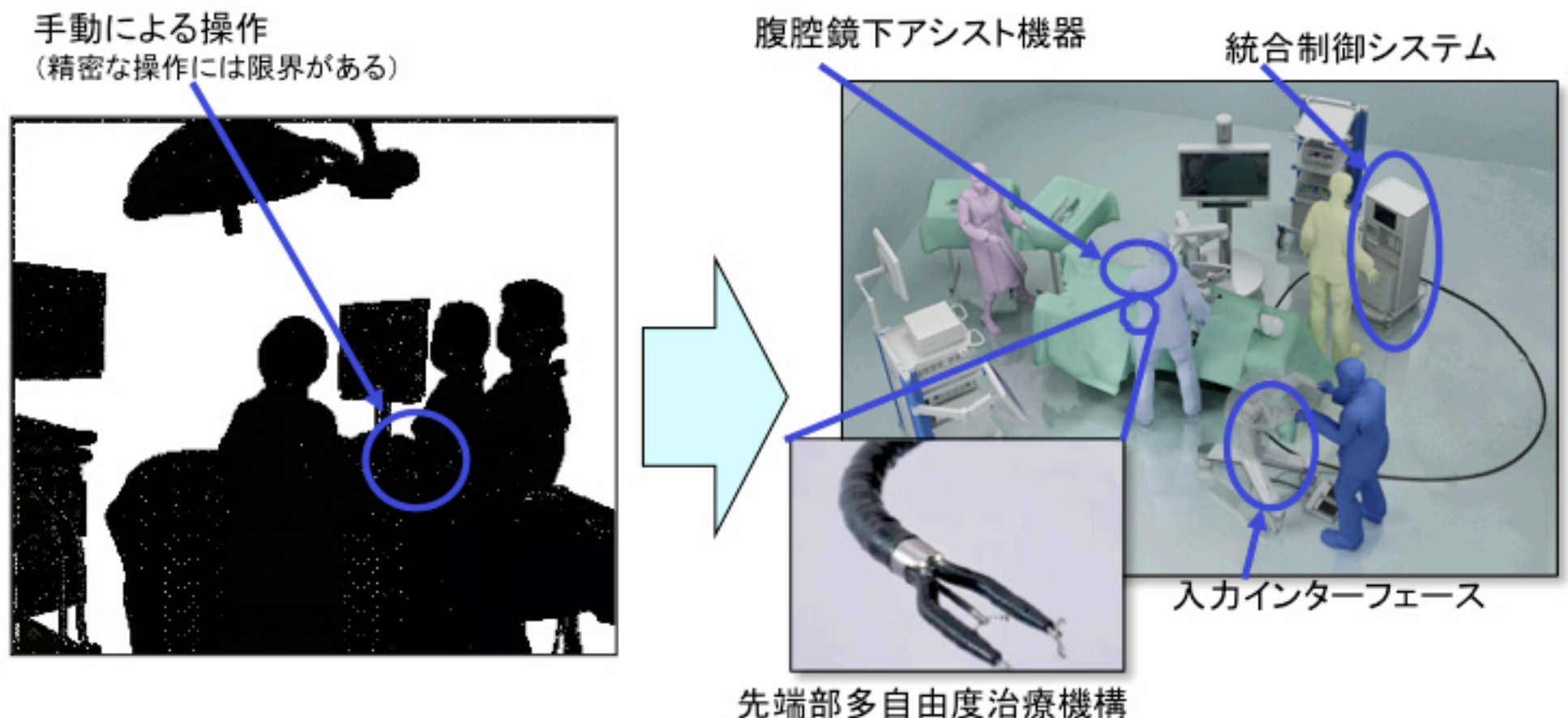
医療費高騰が先進国共通の課題であり、その抑制には疾患の早期発見と切除部位を最小化する等、患部を局所的に治療する「超低侵襲治療」が有望です。このような治療方法に軟性内視鏡下手術がありますが、機器操作が非常に難しく適用が限定されています。

### 2 開発するシステムの概要

この課題を解決するため、オリンパス株式会社が保有する内視鏡関連技術を活用して、マスター・スレーブ型(遠隔操作型)の手術支援ロボティックシステムを開発します。このような多関節軟性手術支援ロボティックシステムを完成させることによって、体内で自在かつ精緻な操作を実現することができ、低侵襲治療が可能となります。

### 3 福島県震災復興への貢献

オリンパスメディカルシステムズ株式会社の軟性内視鏡システムの製造拠点である福島県内の生産工場(会津・白河)を活用します。



現状: 医療現場では治療の低侵襲化が課題

目標: 低侵襲治療の実現